

平成29年度 授業シラバスの詳細内容

科目名(英)	教育原理Ⅱ(Principles of Education Ⅱ)	授業コード	K000401
担当教員名	後藤 靖宏	科目ナンバリングコード	K10105
配当学年	2年	開講期	前期
必修・選択区分	教職必修	単位数	2単位
履修上の注意または履修条件	教育原理Ⅰと合わせて、教育の全体系と教育の基本的過程の理解に努めること。		
受講心得	準テキスト(副教材)に加えて、授業中に随時プリントを配布し、掲示物(模造紙大)を提示することも多いので、よく考えながらノートしてください。		
教科書	副教材『現在教育十戒』		
参考文献及び指定図書	必要に応じて授業中に提示します。		
関連科目	教職に関する全科目		

授業の目的	人間の本質を問い、教育とは何か、教育は如何にあるべきかの諸理論と教育実践への指標を、社会的、制度的、経営的視点から考察し、教育的識見を高めるとともに自己の教育観が持てるようになることを目的としています。
授業の概要	人間観や教育観の史的展開と教育諸理論の考察を通して、教育の意義・目的と社会的機能を考え、人間の成長・発達と教育、生涯にわたる家庭、学校、社会における教育のあり様、教育制度の歴史と教育行政の現状等について概観します。 後半では、主として学校教育(組織的教育の場)に焦点を当て、「なぜ」「何のために」「如何なる条件のもとで」「だれが」「だれに」「何を」「どのような方法で教えるか」という教育の基本過程の中に、教授(教える)と学習(学ぶ)の表裏性、内容と方法の協合性、教師(指導者)と児童・生徒(学習者)の教育的関係等について詳述します。最後に、現代の青少年を取り巻く教育上の諸問題と今後の教育的課題について言及します。

○授業計画	
学修内容	学修課題(予習・復習)
第1週：人間の人間たる所以 人類が万物の霊長たるを以て自負し、一般の動物を大きく引き離してきた所以のものは何か。その由って来るものが人間社会の価値体系を創り出していることを考える。	講義時にプリント資料を配布することも多く、頻繁に掲示物を提示しますので、よく説明を聞きながら積極的にノートを取ってください。 随時、VTR教材、討議学習、質問、小課題レポートなども導入します。
第2週：教育の意義と根本動機 人は、教育されなければならない唯一の存在。築いた文化の伝達と創造に寄与する教育の真義は何か。教育は何を為し得るか、如何にあるべきかを、古来の論点から考察する。	
第3週：生涯にわたる教育作用の体系 幼少期より、日常の無意図的教育作用に加えて、意図的な教育機会が不可欠である。家庭教育・幼児教育、学校教育、社会教育・生涯教育など教育の全体系について概観する。	
第4週：人間の自立と教育 人は、成人するまでに3つの節目を通過する。その成長は「緩やか」と「躍動」の織り成す一定のリズムで進行する。その内実を明らかにし、親や教師のかかわり方を考える。	
第5週：日本の教育制度と教育行政の現状	

<p>明治5年の「学制」以来、日本の教育制度はどう変わってきたか。(諸外国との比較)、教育勅語、近代公教育制度の三原則、中央と地方教育行政の仕組み等について考察する。</p>		
<p>第6週：学校の経営管理と教育活動の内実 教育基本法や学校教育法などの法制的視点から、学校教育の全貌(目的・目標、学校・学級経営、校務分掌等)を明らかにし、教職員の職務内容と職責について概観する。</p>		
<p>第7週：教育課程の編成と学習指導要領 学校教育の内容と方法の骨格となる教育課程と指導計画の作成、その教育課程編成の基準となる学習指導要領の趣旨(改訂の経緯や法的拘束性等含め)について取り上げる。</p>		
<p>第8週：学習指導と授業(教授＝学習)過程の特質 学習指導の形態と方法原理、授業過程を構成する作用契機(教師・生徒・教材)による内容(実質的要素)と方法(形式的過程)の協合がもたらす学習のしくみを考察する。</p>		
<p>第9週：新しい学力観と生徒指導の理念 実質陶冶か形式陶冶かなど、学力論議の変遷を通して「生きる力」としての新しい学力観を問い直し、学習指導と生徒指導の理念・方法原理の相乗的關係について考究する。</p>		
<p>第10週：自己理解の援助とカウンセリング 自己理解を助け自己実現を図れるよう導くのが生徒指導眼目の1つ。人生模索の年代にある青少年期は不安も多い。今求められている教師のカウンセラー的資質について考える。</p>		
<p>第11週：道徳教育の課題 生徒の道徳性を高め育てるために(徳目的啓発主義と体験的開眼主義)、教師は何を為し得るか、自分自身・他者・自然や崇高なもの・集団や社会との関わりに目を向けて考える。</p>		
<p>第12週：教育評価の目的と方法 教育評価は、学校の経営管理から教育実践や教育上の成果の判定、生徒理解の細部にまで及ぶ広い概念。教育評価本来の目的達成に必要な資料収集の方法について考察する。</p>		
<p>第13週：教師論とその訓育的特質 児童・生徒・学生から集めた資料「期待する教師像」分析の結果、教師の指導タイプを4つに分類。支配型・支援型・訓諭型・親和型の考察を中心に「教師の資質」を考える。</p>		
<p>第14週：現代教育上の諸問題 現代は、文明社会の爛熟期、温床的体質は益々強まり、人心は弛緩、教育的無力性を暴露しつつある。頻発する青少年の問題行動、いま何が問題なのか。その対応を考える。</p>		
<p>第15週：教育再生のために 「生き方」を導く訓育的側面と自己実現を目指す啓発的側面とは、教育という車の両輪である。『現代教育十戒』は、現代世相への反省と教育再生に向けた「十の戒め」である。</p>		
<p>第16週：期末試験 試験は、客観テスト問題(再生式、再認式)と記述式問題を合わせて行います。</p>		
授業の運営方法	(1)授業の形式	「講義形式」
	(2)複数担当の場合の方式	
	(3)アクティブ・ラーニング	
地域志向科目		
備考		

○単位を修得するために達成すべき到達目標	
【関心・意欲・態度】	
【知識・理解】	

【技能・表現・コミュニケーション】	
【思考・判断・創造】	

○成績評価基準(合計100点)			合計欄	0点
到達目標の各観点と成績評価方法の関係および配点	期末試験・中間確認等 (テスト)	レポート・作品等 (提出物)	発表・その他 (無形成果)	
【関心・意欲・態度】 ※「学修に取り組む姿勢・意欲」を含む。				
【知識・理解】 ※「専門能力(知識の獲得)」を含む。				
【技能・表現・コミュニケーション】 ※「専門能力(知識の活用)」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を含む。				
【思考・判断・創造】 ※「考え抜く力」を含む。				
<p>(「人間力」について)</p> <p>※以上の観点に、「こころの力」(自己の能力を最大限に発揮するとともに、「自分自身」「他者」「自然」「文化」等との望ましい関係を築き、人格の向上を目指す能力)と「職業能力」(職業観、読解力、論理的思考、表現能力など、産業界の一員となり地域・社会に貢献するために必要な能力)を加えた能力が「人間力」です。</p>				

○配点の明確でない成績評価方法における評価の実施方法と達成水準の目安	
成績評価方法	評価の実施方法と達成水準の目安
レポート・作品等 (提出物)	
発表・その他 (無形成果)	